

諏訪湖の水質 現状は 保全研究へ調査 来年1月発表

岡谷工業高校(岡谷市)環境化学科の3年生14人が11日、諏訪湖の水質調査を行った。個人やグループごとにテーマを決めて取り組む課題研究の一環として、市内の横河川河口付近の水を採取し、測定装置を使って検査。併せて湖岸のごみを拾い集め、身近な環境問題への意識向上につなげた。来年1月に研究成果を披露する。(小山真由美)



測定装置を使って諏訪湖の水質を調べる岡谷工業高校の3年生

岡工環境化学科3年

同科が取り組む研究には、水草ヒシの大量繁殖や貧酸素化などの課題を抱える諏訪湖の生態系をはじめ、湖にすむ魚と微細な「マイクロプラスチック」、泥とメタン発酵などのテーマがある。今回の調査では、おとしに生徒が製作した水質を測定する装置を使用。3年生は採取した水の中にセンサーを沈め、溶存酸素量、水素イオン指数、電気伝導率、水温などを調べ、データを記録した。

清掃はこれから本格化する。課題研究に向け、湖の現状を自らの目で確かめる目的がある。生徒は2班に分かれ、市内の釜口水門と下諏訪町の砥川までそれぞれ湖岸を歩きながらごみを拾った。

同校によると、18日に県諏訪湖環境研究センターの見学を経て、研究テーマを決めるといふ。馬場優大さん(17)は「ふるさとを象徴する諏訪湖。水生生物や湖を守っていく学習に取り組み、水質保全につなげたい」と意欲を見せた。